

毎日心を通わせてお世話。
愛情とおひさまたっぷりで育つ、静岡クラウンメロン

生産者インタビュー

40度の暑さの中でも、毎日欠かさずメロンの気持ちを見ながらお世話。静岡県袋井市でクラウンメロンを自分の子どものように、時に厳しく、時にやさしく愛情を与えている、中條文義さんにお話を伺いました。



静岡県袋井市 | 静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所
中條文義（ちゅうじょうふみよし）さん

取り扱い商品：クラウンメロン

“メロンを作り続けていいのか”



うちのメロンは周年栽培と言い、季節を問わず年間を通じて栽培しています。今年の2月ごろから、新型コロナウイルスの影響を受けはじめました。売り先が無いから、メロンの単価が35~40%ほど下がってしまって……。私は組合の支所長をしているのですが、240の組合員から「このままメロンを作り続けていいのか」「出荷していいのか」と何度も相談されました。

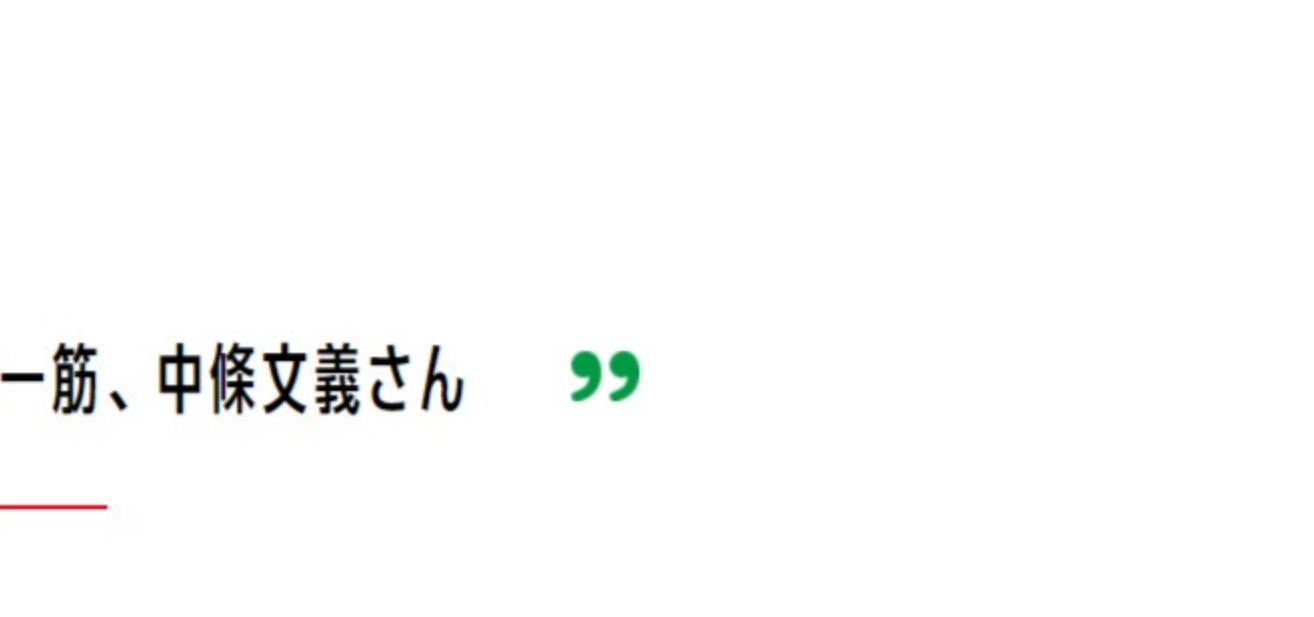
生産者としては、手塙にかけて育てたクラウンメロンをひとつでも多く、お客様の元へ届けたい。それが我々の一番の幸せだからです。せっかく収穫できても破棄することは避けたくて、スーパー・大型ショッピングセンターなどの新しい販路に挑戦。クラウンメロンのおいしさを知ってもらったり組みを行い、なんとか持ちこたえてきました。辛い時期が続きましたが、皆さんがクラウンメロンのことを心に留めていてくれたらしいなと思いつながらやってきました。

“メロンの気持ちに寄り添って育てる”



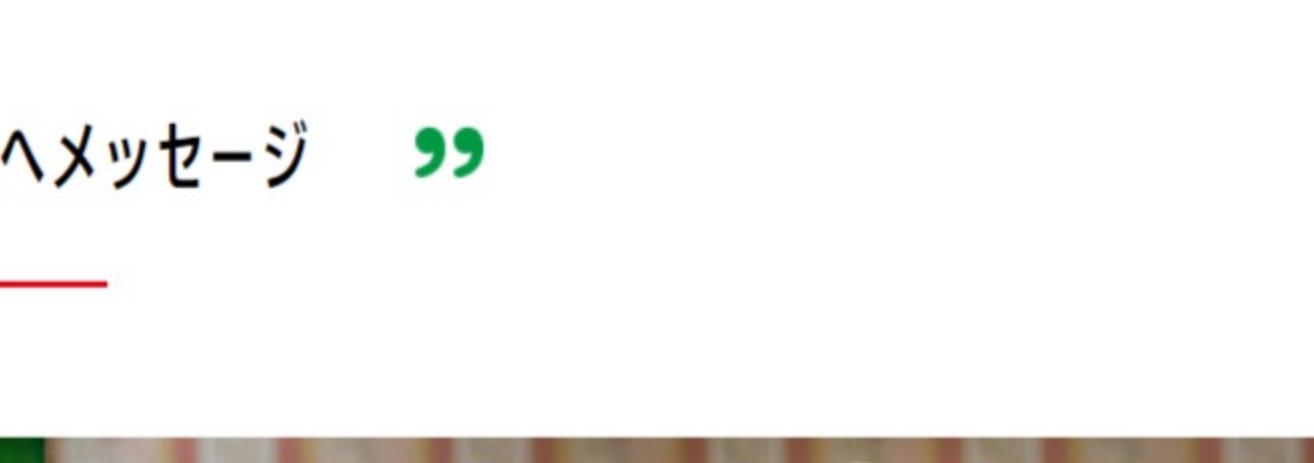
地面と切り離して作る「隔離ベッド」という栽培方法で、1本のに、ひとつだけ実をつけて育てるのが、このメロンの特長です。「一本一果」にすることで実に栄養を集中させ、肉質や甘みが際立つクラウンメロンを作ることができます。

個人的に心がけているのは、メロンにとって気持ちの良い状態で育ててすること。だから、メロンと常に心を通わせる必要があるんです。自分の育て方とメロンの気持ちが一致したときに、良いメロンになるので。「今日はお水がたっぷりほしいよ」みたいに教えてくれたらいいんだけどなって思います（笑）。メロンの気持ちは見た目で判断するしかないから、葉の色や大きさ、萎れ具合のような状態と天候を見て、メロンに寄り添った管理をしています。



メロンのことは毎日欠かさず見ているから、自分の子どもと同じようにかわいいです。メロンについては、どんな表情もすべて見て、育てています。でも最終的には食べ物だから。「こんなにおいしいメロンを食べたのは初めて」と言われるぐらい、食べたときに感動してもらえるように仕上げていますね。

“中條さんが直伝、クラウンメロンの食べ方”

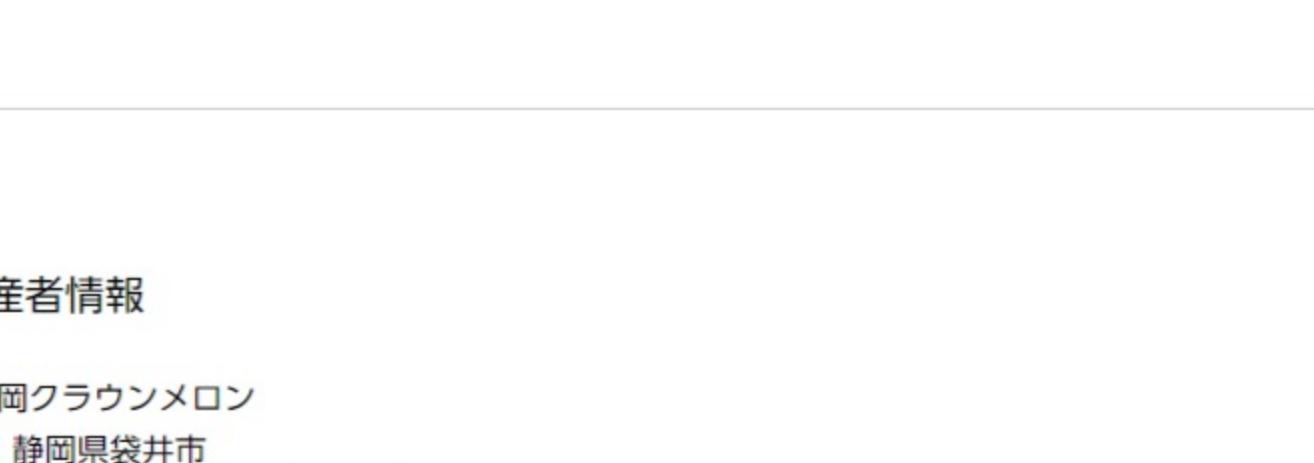
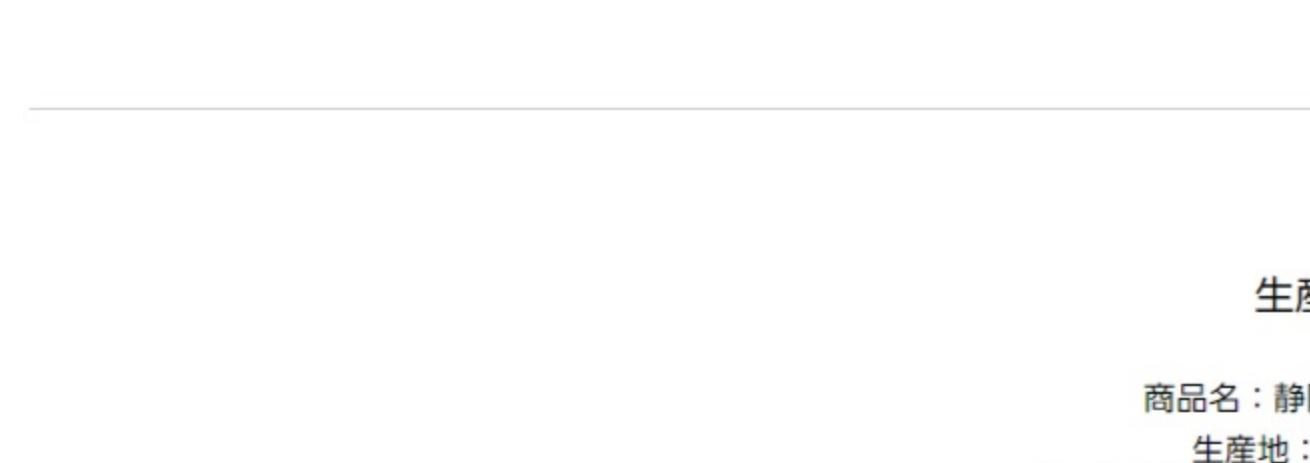


僕はね、メロン農家の長男ですから、学生のころから家を継ぎようになってきました。実家は今でもメロン農家をやっていて、40年ぐらいたっています。昔は、今と違ってほとんどが手作業だったから、日曜日になると手伝われて（笑）。若いころからクラウンメロン一筋でした。



今は、息子と一緒にやってくれていて。受け継いでくれるとありがたいし、さらに次の代へと繋げられるようにしていかたいと思います。メロン作りは暑い中の作業が多く、休みも少ないため大変ですが、良い品質のものを作てお客様に喜ばれるのはうれしいこと。その結果、メロン農家としてきちんと生活できるようになって、そんな姿を見て、メロンを作りたいなと思ってくれる人が増えたらうれしいですね。

“クラウンメロン一筋、中條文義さん”



コロナ禍で我々も大打撃を受けておりますが、組合員240名は、「みなさんに感謝していただけるクラウンメロンを届けたい」と言う想いで一生懸命育ててあります。ぜひ、クラウンメロンを手に取り、おいしさを味わってみてください。みなさんが食べて応援していただけるとうれしいです。

生産者情報

商品名：静岡クラウンメロン

生産地：静岡県袋井市

生産者：静岡県温室農業協同組合クラウンメロン支所

中條文義（ちゅうじょうふみよし）